



## 2019年8月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月12日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社  
 コード番号 3536 URL <http://www.axas-hd.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長  
 四半期報告書提出予定日 2019年7月12日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 久岡 卓司  
 (氏名) 新藤 達也  
 TEL 078-335-8844

(百万円未満切捨て)

### 1. 2019年8月期第3四半期の連結業績(2018年9月1日～2019年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年8月期第3四半期	10,092	7.8	123	12.2	65	21.5	51	75.7
2018年8月期第3四半期	10,951	2.5	140	42.9	83	51.5	210	16.2

(注) 包括利益 2019年8月期第3四半期 27百万円 ( 87.2%) 2018年8月期第3四半期 217百万円 ( 16.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年8月期第3四半期	1.69	
2018年8月期第3四半期	6.94	

潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年8月期第3四半期	11,618	1,513	13.0	49.89
2018年8月期	10,893	1,515	13.9	49.97

(参考) 自己資本 2019年8月期第3四半期 1,513百万円 2018年8月期 1,515百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年8月期		0.00		1.00	1.00
2019年8月期		0.00			
2019年8月期(予想)				1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年8月期の連結業績予想(2018年9月1日～2019年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,030	3.1	237	11.9	140	7.3	78	69.7	2.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年8月期3Q	32,258,453 株	2018年8月期	32,258,453 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2019年8月期3Q	1,933,201 株	2018年8月期	1,933,201 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年8月期3Q	30,325,252 株	2018年8月期3Q	30,325,253 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページをご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

「2019年8月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)」より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2018年9月1日から2019年5月31日)のわが国の経済は、米中貿易摩擦の激化や、英国の欧州連合(EU)離脱問題、また、米国によるイラン産原油の全面禁油等、海外情勢への先行き不透明感が強まるなか、人手不足を背景とした物流コスト及び人件費の上昇や、原材料コストの高騰によるメーカーの値上げ等により、企業利益を圧迫する状況が続いております。個人消費では、皇位継承に伴う大型連休特需や、バブル期等往年のヒット商品を今風に作り直した商品が再ブレイクしたことによるリバイバル消費が起こる等、一部において消費マインド改善の兆しが見られたものの、社会保険料の負担増や年金、医療制度等の将来への懸念が強まり、可処分所得が貯蓄に回る保守的な消費性向が続いております。このような状況の下、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして、地域社会の生活文化の質的な向上を「美・健康・ゆとりの側面」から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値の更なる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的には、2019年4月、チャーリー阿南店(徳島県阿南市)において、コスメを中心としたドラッグ系商品、食品、酒類及びペーパー用品の売場改装を実施し、商品の取扱いも更に充実させるリニューアルを実施いたしました。また、同年同月、徳島阿波おどり空港の国内線搭乗待合室に、コスメ、文房具や食品の他、徳島のお土産品等を販売する、チャーリー川内店<TOKUSHIMA AIRPORT>(徳島県板野郡)をオープンいたしました。そして、同年5月、チャーリー沖浜店(徳島県徳島市)においても内装、什器等の大規模リニューアルを実施し、正面入り口から奥までのメイン通路の幅を今までより広げ、その中央には商品提案用の陳列什器を使用したイベントスペースを設ける等、空間の広がりや開放感を感じさせる店舗となりました。

その結果、当第3四半期連結会計期間末におけるグループ店舗数は、32店舗(前述のチャーリー川内店<TOKUSHIMA AIRPORT>は、既存のチャーリー川内店(徳島県徳島市)の管理に含めていることから、店舗数集計から除いております)となりました。

また、営業外費用におきましては、合併等による実質的存続性の喪失に係る猶予期間の解除に伴う審査等に要した上場関連費用5百万円を計上しております。特別損失におきましては、当社の連結子会社であるACリアルエステイト株式会社(以下「ACリアルエステイト」という)の損害賠償請求訴訟の第1審判決に対する控訴の提起に伴い、控訴審に要する訴訟関連損失5百万円等を計上しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの経営成績につきましては、売上高は10,092百万円(前年同四半期比7.8%減)となり、営業利益は123百万円(同12.2%減)、経常利益は65百万円(同21.5%減)となりました。特別利益は無く(前年同四半期は277百万円)、特別損失は8百万円(前年同四半期比93.9%減)となり、法人税等を加えまして、親会社株主に帰属する四半期純利益は51百万円(同75.7%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ① 小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケアユニットでは、化粧品部門において、インバウンド需要のあったスキンケアカテゴリーやメイクカテゴリーの他、サロン用ヘアケアのメガブランドのヒット商品人気が続いているヘアケアカテゴリー等の売上高が好調に推移いたしました。しかし、前述のチャーリー阿南店とチャーリー沖浜店のリニューアル前の売尽くしセールによって、当ユニットの既存店ベースの売上高が伸長した一方で、売上総利益額は押し上げるに至りませんでした。

ライフスタイルユニットでは、ヘルス&ビューティーケアユニットと同様に化粧品部門のヘアケアカテゴリーが好調だった他、新ブランドの投入や人気商品のリニューアル効果でメイクカテゴリーの売上高、売上総利益額が伸長いたしました。特にバッグのトレンドが当年は大型のものから小ぶりのバッグに推移したことでバッグ部門の客単価が下がったこと等により、当ユニットの売上高、売上総利益額を押し上げるには至りませんでした。

アスレユニットでは、ランニングシューズカテゴリーの販売が低調に推移したものの、デザイン性と品質の高さを兼ね備えた人気アウトドアブランドの半袖Tシャツを中心としたアパレルが好調に推移いたしました。また、この時季の学生の通学需要を背景にカジュアルデザインのバックパック類の販売が好調だったことに加え、外商においてプロチーム関連の大口納品や販売があったこと等で、当ユニットの売上高、売上総利益額が伸長いたしました。

アルコユニットでは、酒類部門において、アワーリカー沖浜店(徳島県徳島市)の品揃えを洋酒や付加価値の高い酒類等専門的な商品に変更し、一般的なビール、日本酒及び焼酎等をホームキーパーユニットのデコール沖浜店(徳島県徳島市)に移設したことで、これらカテゴリーの売上高、売上総利益額が剥落いたしました。しかし、高付加価値商品の品揃えを強化したスピリッツ、ブランデー及び甘味果実酒カテゴリー等の売上総利益率が

大きく伸長し、また、ECサイトでは果実酒カテゴリーの売上高が伸長いたしました。また、アルコユニット単独では、前述の移設によるカテゴリーの売上高、売上総利益額の剥落分を補うまでには至りませんでした。

ホームキーパーユニットでは、デコール沖浜店において、広告宣伝によって、地震対応のためのブロック塀改修工事や室内内装工事等の大口工事の受注件数が増加したリフォーム部門等の売上高、売上総利益額が伸長いたしました。一方で、第2四半期連結会計期間にデコール川内店（徳島県徳島市）の一部をチャーリー川内店に改装したことにより、売場を縮小した雑貨やインテリア部門等の売上高、売上総利益額が剥落し、また、春先の気温の低下や天候不順で植物、野菜苗の販売が落ち込んだ園芸部門の販売が低迷したこと等により、当ユニットの売上高、売上総利益額を押し上げるに至りませんでした。

これらの結果、売上高は7,130百万円（前年同四半期比7.8%減）、セグメント利益は292百万円（同4.4%増）となりました。

## ② 卸売事業

卸売事業につきましては、ウイスキーカテゴリーにおいては、次のハイボールを担うスコッチウイスキーや、クラフトと名の付く走りであるバーボンウイスキー等、様々なウイスキーを提案し、品揃えの強化を図ったことで、大幅に伸長いたしました。また、オリジナル商品においては、マーケットインで開発した商品や、これまでにない新たなジャンルの商品等を市場に提案することで伸長しております。しかしながら、仕入価額が上昇基調となるなかで、販売価額にすべて転嫁することが困難な市況や、シャンパンカテゴリーの国内消費拡大の鈍化、価格競争の増加により、厳しい環境が続いたことで、当事業部の売上高、売上総利益額を押し上げるに至りませんでした。

これらの結果、売上高は2,956百万円（前年同四半期比8.0%減）、セグメント利益は185百万円（同18.6%減）となりました。

## ③ その他

当セグメントには不動産賃貸事業等の売上高が含まれております。当セグメントにつきましては、前第3四半期連結会計期間に譲渡いたしました神戸市中央区のビルにおける賃貸テナントの売上及び営業利益の剥落等により、当第3四半期連結累計期間の売上高は223百万円（前年同四半期比11.1%減）、セグメント利益は63百万円（同0.0%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は11,618百万円（前期末比6.7%増）となり、前連結会計年度末に比べ725百万円増加いたしました。これは主に、たな卸資産370百万円、土地333百万円、建物及び構築物（純額）168百万円等の増加に対し、現金及び預金180百万円等の減少によるものであります。

負債合計は10,105百万円（同7.8%増）となり、前連結会計年度末に比べ727百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金860百万円、買掛金81百万円等の増加に対し、長期借入金75百万円、その他流動負債66百万円、未払金32百万円等の減少によるものであります。

純資産合計は1,513百万円（同0.2%減）となり、前連結会計年度末に比べ2百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益51百万円による利益剰余金の増加に対し、配当金の支払30百万円による利益剰余金の減少及びその他有価証券評価差額金23百万円の減少によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は13.0%（同0.9ポイント減）となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年10月15日付「平成30年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	765,318	584,430
売掛金	449,741	423,113
たな卸資産	4,248,962	4,619,167
預け金	141,648	36,550
未収還付法人税等	929	30,630
その他	154,463	238,614
貸倒引当金	△560	△408
流動資産合計	5,760,504	5,932,098
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,269,418	1,438,357
機械装置及び運搬具（純額）	1,136	3,463
什器備品（純額）	114,019	173,634
土地	2,752,373	3,086,271
建設仮勘定	2,685	9,828
有形固定資産合計	4,139,633	4,711,554
無形固定資産		
借地権	30,296	30,296
ソフトウェア	48,363	26,852
電話加入権	7,821	7,821
無形固定資産合計	86,481	64,970
投資その他の資産		
投資有価証券	158,336	123,195
繰延税金資産	156,271	180,998
敷金及び保証金	544,135	526,322
破産更生債権等	12,749	12,749
その他	50,086	79,175
貸倒引当金	△15,089	△12,749
投資その他の資産合計	906,489	909,691
固定資産合計	5,132,604	5,686,217
資産合計	10,893,108	11,618,315

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	590,178	671,291
短期借入金	6,170,000	7,030,000
1年内返済予定の長期借入金	226,990	234,491
リース債務	3,838	1,650
未払法人税等	22,108	17,252
賞与引当金	35,930	15,856
ポイント引当金	21,257	22,287
資産除去債務	13,856	—
未払金	245,259	212,908
その他	99,549	32,719
流動負債合計	7,428,967	8,238,457
固定負債		
長期借入金	1,447,682	1,372,299
リース債務	2,664	1,420
役員退職慰労引当金	36,000	46,800
資産除去債務	174,943	177,784
受入保証金	212,055	198,421
その他	75,385	70,090
固定負債合計	1,948,730	1,866,815
負債合計	9,377,698	10,105,272
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金		
資本準備金	6,451	6,451
その他資本剰余金	1,776,695	1,776,695
資本剰余金合計	1,783,147	1,783,147
利益剰余金		
利益準備金	6,048	6,048
繰越利益剰余金	△258,235	△237,442
利益剰余金合計	△252,187	△231,393
自己株式	△96,660	△96,660
株主資本合計	1,484,299	1,505,093
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,110	7,949
その他の包括利益累計額合計	31,110	7,949
純資産合計	1,515,410	1,513,042
負債純資産合計	10,893,108	11,618,315

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)
売上高	10,951,511	10,092,413
売上原価	8,134,921	7,488,070
売上総利益	2,816,589	2,604,343
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	890,147	802,140
その他	1,785,972	1,678,816
販売費及び一般管理費合計	2,676,119	2,480,957
営業利益	140,469	123,386
営業外収益		
受取利息	533	489
受取配当金	1,181	1,008
受取保険金	669	1,582
貸倒引当金戻入額	514	2,339
その他	7,487	11,105
営業外収益合計	10,386	16,525
営業外費用		
支払利息	60,183	54,100
為替差損	442	4,613
上場関連費用	—	5,695
その他	7,229	10,382
営業外費用合計	67,856	74,791
経常利益	83,000	65,120
特別利益		
固定資産売却益	277,496	—
特別利益合計	277,496	—
特別損失		
減損損失	67,605	—
賃貸借契約解約損	56,663	498
閉店損失	7,500	—
固定資産除却損	11,994	0
訴訟関連損失	—	5,000
商品廃棄損	2,602	3,423
特別損失合計	146,366	8,921
税金等調整前四半期純利益	214,129	56,199
法人税、住民税及び事業税	16,001	17,827
法人税等調整額	△12,327	△12,747
法人税等合計	3,673	5,080
四半期純利益	210,455	51,118
親会社株主に帰属する四半期純利益	210,455	51,118

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)
四半期純利益	210,455	51,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,177	△23,161
その他の包括利益合計	7,177	△23,161
四半期包括利益	217,633	27,957
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	217,633	27,957



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2018年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			そ の 他 (注) 1	合 計	調 整 額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計 上 額 (注) 3
	小 売 事 業	卸 売 事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,731,068	2,969,680	10,700,749	250,761	10,951,511	—	10,951,511
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	243,659	243,659	643	244,302	△244,302	—
計	7,731,068	3,213,340	10,944,408	251,404	11,195,813	△244,302	10,951,511
セグメント利益	280,094	228,320	508,415	63,528	571,943	△431,473	140,469

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△431,473千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」及び「その他」において減損損失を計上しております。当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、「小売事業」52,755千円及び「その他」14,849千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2019年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			そ の 他 (注) 1	合 計	調 整 額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計 上 額 (注) 3
	小 売 事 業	卸 売 事 業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,130,431	2,739,034	9,869,465	222,948	10,092,413	—	10,092,413
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	217,637	217,637	643	218,280	△218,280	—
計	7,130,431	2,956,671	10,087,103	223,591	10,310,694	△218,280	10,092,413
セグメント利益	292,311	185,866	478,178	63,541	541,719	△418,333	123,386

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△418,333千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。